

長谷川豪志先生の名誉教授記念号に寄せて

経営学部長 中 井 透

長谷川豪志先生は、平成26年3月末をもって京都産業大学を定年でご退職されました。長谷川先生が本学に着任されたのは昭和41年（1966年）のことで、爾来48年の長きにわたり、教育・研究を通じて本学の発展に寄与されてこられました。申すまでもなく1965年に創立された本学は2015年に50周年の節目の年を迎えますが、まさに本学の黎明期から成長・発展期における大学の歴史のほとんどの期間において多方面でご活躍されご尽力されたこととなります。このたび、長谷川先生のご退職を記念して本号を発行させていただくことは、われわれ関係者一同の大きな喜びであります。

先生は1966年に日本体育大学体育学部健康学科をご卒業後、本学でのご勤務ご多忙の中、1974年から1984年にかけて東京慈恵会医科大学生理学教室で専攻生としてご研究を深められ、1984年に東京慈恵会医科大学から医学博士の学位を授与されました。その後も、1991年と1997年の2度にわたってドイツのマックスプランク研究所で在外研究をされ、2012年には約半年間ドイツのケルン大学医学部で在外研究に従事されました。こうしたご研究は、ご著書4冊、学術論文72本という多くの業績に結実されました。

先生は教養部助手としてご着任以来、講師、助教授を経て、1987年に現代体育研究所教授に、そして2002年に経営学部教授にご就任されました。経営学部では、その後、人権委員会委員、人権センター運営委員、入試委員会委員、衛生委員会委員、全学省エネルギー推進委員会委員として学内業務にもご尽力いただきました。

このように、ご研究でも学務においても大いにご活躍され、多くの実績を残してこられたわけですが、これらに勝るとも劣らぬほど印象深いのは、先生が注力されてきた禁煙教育ではないでしょうか。喫煙者にとって時に恐れられる存在であったわけですが、特に学生諸子に対しては心から彼らの健康を慮っておられた証であり、先生の優しさの、先生なりの表現方法だったのではと思えてなりません。

先生は経営学部の懇親会でカメラを持参され、撮影した集合写真を参加者に配っておられました。おかげさまで、われわれの手元には先生とご一緒できた楽しい宴の思い出が何枚か残っています。これからも、集合写真の中で微笑まれるお姿そのままに、お元気でますますご活躍されることを心より祈念いたします。

